

よこみねいせき
横峯遺跡

【所在地】熊毛郡南種子町大字島間小字横峯2510番地の1

【種別】県指定史跡

【指定年月日】平成15年4月22日



礫群

- 1 種子・屋久地方において旧石器時代の人々の生活跡が発掘調査によって初めて発見された遺跡である。また、地層の堆積状況を調査した結果、旧石器時代から縄文時代早期にかけた5つの時期に同じ場所で生活が営まれていたことも確認された。
- 2 調理施設と考えられている礫群^{れきぐん}あるいは集石^{しゅうせき}が、旧石器時代（約31,000年前）から縄文時代早期（約6,500年前）まで断続的に構築されていたことが確認された。
- 3 大隅諸島における旧石器時代研究の扉を開くとともに、成立や内容について不明な部分が多い琉球列島の旧石器文化の研究にとって重要な遺跡である。
- 4 指定面積は8089.27㎡である。

【参考】礫群^{れきぐん}と集石^{しゅうせき}

拳大程度の大きさの石を意図的に集めた遺構で、蒸焼き料理や石焼き料理の施設とみられている。

旧石器時代のものを礫群、縄文時代のものを集石と呼ぶ。